

胡町

このまちに

積み重なる歴史を

とどめて



文／平木久恵
写真／麻生祥代



「豆徳本店」。上はまめで気配りの行き届いたスタッフの皆さんと徳永会長(中央)

胡町に続く交差点にある広島銀行胡町支店も胡町派出所も、鹿鳴館調のレンガ造り。そうかと思えば、丹精した鉢を並べた民家やいかにも時代がかった仏具店や陶器店もこの町の顔。

そんな中に、「竹炭豆」のヒットで知られる「豆徳本店」(徳永製菓)があった。戦後まもなく建てられたという大屋根の風格ある建物に、驚くほどたくさん豆菓子と並んでいる。従業員らもアイデアを出し、毎月新商品を発売する。いろんな種類の豆やナッツに多様な味をコーティング、おやつからおつまみまでオールラウンドに対応する「おまめさん」たちが行儀良く勢ぞろいしてお客のチョイスを待っている。「アイデアが良くても、ヒットするとは限りませんが、皆さんが楽しんでくださるのが励みです」と会長の徳永ひろみさん。

「ボーン、ボーン」。これまた年代物の柱時計が懐かしい音で時を告げる。ポリポリと豆菓子をかじりながら、子ども頃の「おやつ時間」を懐かしむ。

さあ、また歩きだそう。正面に真っ赤な太鼓橋が見える。江戸時代の町割が残るこの辺りは、かつて福山城の外堀「吉津川」に架けられていた橋や惣門(番所)があった。その記憶をとどめるために作られたという。通りの立派な蔵や